

伊勢茶の振興に関する 条例策定調査特別委員会 説明資料

- 1 学校給食におけるお茶を通じた食育の推進について・・・・・・・・・・ 1
- 2 三重県の特産であるお茶に関する学習について・・・・・・・・・・ 3

令和6年8月22日
教育委員会

1 学校教育におけるお茶を通じた食育の推進について

1 学校教育における食育の推進

健康な生活を送るために健全な食生活は欠かせないものです。新しい学習指導要領や「食に関する指導の手引（第二次改定版）」には、食育の推進をふまえ、学校教育活動全体をとおして、食育を組織的・計画的に推進することが示されています。

県教育委員会では、食文化や地場産業、生産者等について子どもたちの関心を高めるとともに、地産地消の意識を醸成するため、学校給食等を活用した食育を推進しています。地場産物については、地域の実情や子どもの実態に応じて、食育の取組に活用しており、県内の地場産物の一つであるお茶についても食育の題材として活用しています。

2 お茶を通じた食育の推進

(1)「食育月間」の取組

国は、食育に対する理解を深め、食育推進の一層の充実と定着を図るため、6月を「食育月間」と定めており、県教育委員会においても農林水産部と連携し、県立学校および小中学校での食育の取組を推進しています。

亀山市の小学校や伊賀市の県立学校では、日本茶の文化について理解を深めるためのお茶の淹れ方教室、鈴鹿市の中学校（特別支援学級）では、茶もみやお茶淹れ体験が行われています。

(2)「みえ地物一番給食の日」の取組

地産地消運動の「みえ地物一番の日」に合わせて、各学校においても毎月第3日曜日をはさんだ前後1週間の2週間以内に「みえ地物一番給食の日」を定め、地場産物を使用した給食献立の作成、給食だより等による地場産物の紹介、授業等で地場産物の学習をしています。

<伊勢茶を活用した給食献立例>

津市（県立学校）：伊勢茶プリン

鈴鹿市：鈴鹿のお茶うどん

大台町：豚肉の伊勢茶煮

(3) おすすめ献立

食育・学校給食担当者連絡協議会において、4市町の担当者から地域自慢のおすすめ献立として伊勢茶を活用した学校給食が紹介され、作り方や分量について情報共有を行いました。

＜伊勢茶を活用した「おすすめ献立」例＞

鈴鹿市：地産地消いろいろ、さばの伊勢茶ふりかけ、
ちくわの緑茶揚げ

亀山市：茶葉入り亀山コロッケ

明和町：伊勢はんぺいの緑茶揚げ

大台町：茶きあげ

3 家庭科におけるお茶の淹れ方の指導

(1) 小学校における取組

家庭科の小学校学習指導要領では、家族との団らんや地域の方との交流で、楽しく和やかに過ごすための工夫としてお茶を淹れることが取り上げられています。県内で使用されている小学校家庭科教科書では、食生活を学習する単元でお茶の淹れ方が取り扱われており、全ての小学校で5年生の調理実習の中で、お茶の淹れ方を学習しています。

なお、技術・家庭科の中学校学習指導要領や県内で使用されている中学校家庭科教科書には、お茶の淹れ方に関する記載はありません。

(2) 高等学校における取組

家庭科、農業科の高等学校学習指導要領には、お茶に関する記載はありませんが、お茶の産地や近隣に位置する四日市農芸高校、白子高校、亀山高校、久居農林高校の家庭学科や、相可高校、明野高校の農業学科、南伊勢高校度会校舎普通科において、地域の茶業組合や茶園の協力のもと、地域の食文化の理解を深める一環として、家庭科や農業科の授業でお茶の淹れ方の講習等を行っています。

これらの取組は、普段は意識することなく飲んでいたお茶に対する見方が変わるきっかけとなり、お茶を通じて食生活を豊かにする態度の育成につながっています。

2 三重県の特産であるお茶に関する学習について

1 本県の特産品に関する学習

(1) 小中学校における取組

小中学校では、総合的な学習の時間に探究活動として、地域のお茶に関する学習をしたり、特別活動の学校行事として、茶摘み体験や茶工場の社会見学をしたりするなど、お茶に関する学習が行われています。

お茶に関する学習をとおり、自然条件を生かした地域の産業を体感したり、他者と協働して学習を深めたりすることを目指して、家庭や地域社会と連携しつつ、各教科等の特質に応じた体験活動が実施されています。また、小中学生の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう、さまざまな取組が進められています。

【主な取組】

- ・度会町の小中学校では、高校生とともに茶摘み体験を実施しており、令和6年度は、中学校と高校が同じ日に茶摘み体験を行いました。また、摘んだお茶は、地域の製茶業の方が製茶し、パッケージされたものを児童生徒が自宅に持ち帰りました。
- ・松阪市のお茶の産地の中学校では、総合的な学習の時間の探究活動として小グループで地域の調べ学習を行っており、そのうちの一つにお茶の研究を行うグループがあります。茶農業を営む方に栽培などについて聞き取りに行ったり、地元の緑茶カフェの協力を得て、緑茶プリンづくりをしたりしています。
- ・亀山市の小学校では、3年生の社会科の学習の一環として県農業研究所（茶業・花植木研究室）を社会見学しています。また、大台町の小学校では、地元の茶工場を見学する取組が進められています。
- ・四日市市のお茶の産地の中学校では、勤労の尊さや生産の喜びを体得し、勤労観・職業観に関わる啓発的な体験が得られるようにするため、職場体験学習のうちの1つとして、茶農家や製茶業を職場体験する取組が進められています。

(2) 高等学校における取組

高等学校では、お茶の産地や近隣に位置する農業学科や家庭学科等を中心に、お茶に関する学習が行われています。

お茶に関する理解を深め、将来の地域の農業や食品製造業等を支える担い手育成に取り組むとともに、地域に受け継がれてきた産業を学ぶ中で、他者とともに課題の発見や解決に取り組む力を育み、自らの生き方と地域や産業の未来を重ねて考え、チャレンジする人材の育成につなげています。

【主な取組】

- ・明野高校では、独自に開設している科目「茶の文化」において、校内の茶園での栽培から製茶までの実習、成分分析や二次加工による商品開発に取り組み、食品の安全性や環境保全等を学んでいます。校内で栽培したお茶は、平成30年3月、JGAPの認証を全国の高校で2番目（東海地方では初）に取得し、平成31年4月、全国初のASIA GAPの認証を取得しました。
- ・相可高校では、科目「総合実習」において、地域の茶園を訪問し、有機肥料を使った栽培や霜害対策、獣害対策について見学するとともに、機械化された製茶工場を訪問し、製品として完成するまでの過程を見学しています。機械化や自動化による合理化、低コスト化の状況を学ぶとともに、茶生産者の高齢化等の茶業の抱える課題についても学習しています。
- ・四日市農芸高校では、「課題研究」において、地域の企業と連携し、水沢地区で肥料の改良による生産性向上に向けた取組をはじめ、耕作放棄茶園や担い手不足等の課題解決に向けた学習に取り組んでいます。
- ・神戸高校では、鈴鹿地域の課題解決に向けてグループ単位で取り組む「鈴鹿学」の授業において、お茶の効能について調べ、四日市市やいなべ市の茶園等と連携してお茶の入浴剤への活用や茶殻の料理への活用について取り組んでいます。

2 お茶の産地に位置する公立学校におけるお茶の歴史・文化に関する学習

(1) 小中学校における取組

お茶が生産されている市町では、社会科の授業や総合的な学習の時間、特別活動等において、お茶についての歴史・文化についての学習を行っている学校があります。

郷土の伝統と文化に対する関心や理解を深めるとともに、継承、発展させる態度を育成していくことや、郷土への親しみや愛着の情を深め、社会の発展に貢献していくことのできる能力や態度を養うことを目的とし、さまざまな取組が行われています。

【主な取組】

- ・四日市市では『のびゆく四日市』という地域教材を作成し、小学校社会科の時間に、地域の産業や文化についての学習を行っています。その教材の中では、地域の茶農家の仕事やその工夫、製茶の方法、全国における本県の製茶量などが扱われており、地域のお茶に関する学習が進められるようになっていきます。

- ・ 亀山市の小学校では、地域の製茶業の方を招聘し、お茶に関する学習を行うとともに、地域で製造されたお茶を淹れ、普段飲んでいる飲料との違いを感じるような体験活動が行われています。また、鈴鹿市の小学校では、地域の製茶業の方を招聘し「お茶のおはなし会」を開催し、お茶のルーツや種類、栽培方法等についての授業が行われています。
- ・ 大台町の小学校では、地域の産業について関心や理解を深めるため、5年生体験学習として茶道体験を行っています。また、鈴鹿市の小学校では、年4回のクラブ活動の一環として、裏千家の先生を招聘し、お茶にまつわる話や作法を学びつつ、自分で抹茶を立て、地域の和菓子を食べながら日本の文化を体験しています。
- ・ 江戸から大正にかけて、お茶の品質向上や製茶業の発展に貢献した「大谷嘉兵衛」の生誕した松阪市では、社会科の副読本として『わたしたちの松阪市』を作成しており、その中で「大谷嘉兵衛」に関する記載があります。小学校3年生の地域に関する学習の教材として使用されています。

(2) 高等学校における取組

高等学校では、お茶の歴史やお茶の文化の継承についての学習をとおして、受け継がれてきた地域産業への想いを改めて再確認するとともに、郷土に誇りと愛着を持ち、郷土を大切にすることを育んでいます。

【主な取組】

- ・ 明野高校の「茶の文化」の授業や飯南高校の「郷土の産業」の授業において、本県には800年以上の茶栽培の歴史があることや、江戸時代には伊勢商人により江戸をはじめ東北地方にまで販路を拡大していたこと、明治期には日本茶輸出について指導的な立場であったことなど、我が国の茶生産において重要な役割を担ってきた歴史や、県内各地域に残るお茶にまつわる食文化について、自校で作成したオリジナル教材を用いて学習しています。
- ・ 四日市農芸高校や白子高校、松阪商業高校、相可高校においても、製茶や販売を行う企業の方から講義を受ける機会を設けています。
- ・ 45校で茶道部が活動しており、茶道の作法や礼儀、日本の伝統文化への理解を深めています。また、学校の文化祭をはじめ様々なイベントでお茶会を開催し、お茶文化の魅力の発信に取り組んでいます。